旧吉田茂邸再建に向けて　連載シリーズ③

大磯の賢人　吉田茂

「吉田茂」のルーツ

吉田茂は土佐出身の竹内綱の五男として明治11年9月22日に生まれました。

吉田は幼少期に、かねてからの約束により、竹内の親友であった吉田健三の養子となっています。

福井出身の健三は、英国渡航経験と卓越した商売センスを活かし、実業家として成功を収め、一代にして巨万の富を築き上げました。吉田はこの資産を「吉田財閥」と称しています。

▲学習院時代（写真／吉岡氏所蔵）

健三の妻・士子は昌平坂学問所の儒官・佐藤一斎の孫娘であり、吉田は「気位の高い人であった。（中略）ワンマンと言われるようになった私の性格は、このころの養母の影響であったのかも知れぬと思っている。」（『大磯の松籟　わが履歴書』）と語っています。

こうした個性的な養父母との生活が吉田の人格形成に多大な影響を与えたであろうことは想像に難くありません。

健三が明治20年頃大磯に邸宅を構えてからは、吉田は大磯の地で多感な少年時代を過ごしました。

明治22年、吉田は藤沢の漢学塾・耕餘塾（耕餘義塾）に入学します。吉田はここで漢学の教養を積んだだけでなく、「人情の機微」を学びました。耕餘塾における日々は、吉田の人生観に色濃く反映されたのです。

耕餘塾卒業後はいくつかの学校を転々としていましたが、明治30年、学習院中等学科に編入します。健三の死後、その莫大な遺産を相続した吉田は優雅な学生生活を送りました。当時、広尾の邸宅から学習院のある目白まで馬に跨り通学したといいます。吉田はその後外交官養成を目的とする学習院大学科に進学します。院長・近衛篤麿の急死による大学科廃止後は、東京帝国大学に編入し、明治39年に卒業、同年外交官領事官試験に合格します。吉田28歳、外交デビューの幕開けです。

広報おおいそ11月号3ページ、「大磯の賢人　吉田茂」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

（誤）長女の麻生和子氏
（正）三女の麻生和子氏

◎問い合わせ　郷土資料館臨時学芸員　曽根田　☎（61）4700

岐阜県中津川市からの　姉妹都市だより

OISO SISTER CITY

10月25日（日）、岐阜県中津川市に開催された第22回ふるさと馬籠ごへー祭りに、吉川副町長、井上観光協会長をはじめ、総勢17名で訪問しました。

旧吉田茂邸再建基金寄附へのお礼

10月12日（月・祝）に行った「大磯町総合防災訓練」において、旧吉田茂邸再建基金へご寄附いただいたため、そのお礼を兼ねて訪問し、引き続きの協力をお願いしました。

また、旧東海道の〝旅がらす〟の扮装も交えながら、ごへー祭り会場内を巡って募金活動を行いました。

▲来賓のあいさつと引き続きの協力をお願いする吉川副町長

第22回ふるさと馬籠ごへー祭りに参加

天候にも恵まれ、約3万人の来場者が訪れた祭りにおいて、町を紹介するブースを設置しました。大磯の観光紹介や大磯港で獲れた魚の干物などの海産物を販売し、好評のうちに完売となりました。

▲大磯町を紹介しているブース

◎問い合わせ　総務課　☎内線211